



子宮筋腫について

子宮は筋肉で、そこにできる腫瘍を子宮筋腫といいます。基本的には良性の疾患ですが、癌（子宮肉腫）との鑑別が必要になることがあります。また、筋腫のできる場所などで症状が違います。主に月経痛や過多月経等があります。妊娠についても腫瘍の場所により影響が出ることもあります。不妊の原因となるのは子宮内膜を変形させるような子宮筋腫が多く、子宮筋腫を持ったまま妊娠した場合、流産や早産のリスクがあるとされています。また、子宮が大きくなっていく関係で腹痛が強くなることもあります。

診断

エコー検査・MRIなど

治療

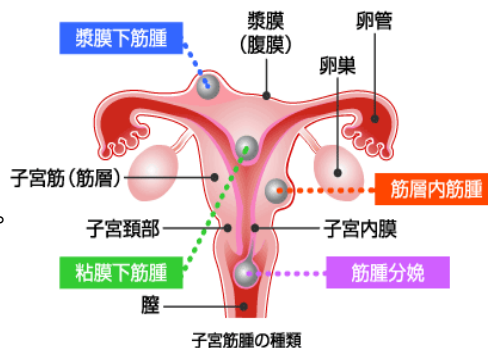
内科的

薬（内服・点鼻・注射）を用い、月経を半年程止める。

外科的

手術（腹腔鏡・開腹）

子宮筋腫摘出後、6ヶ月程度避妊となります。



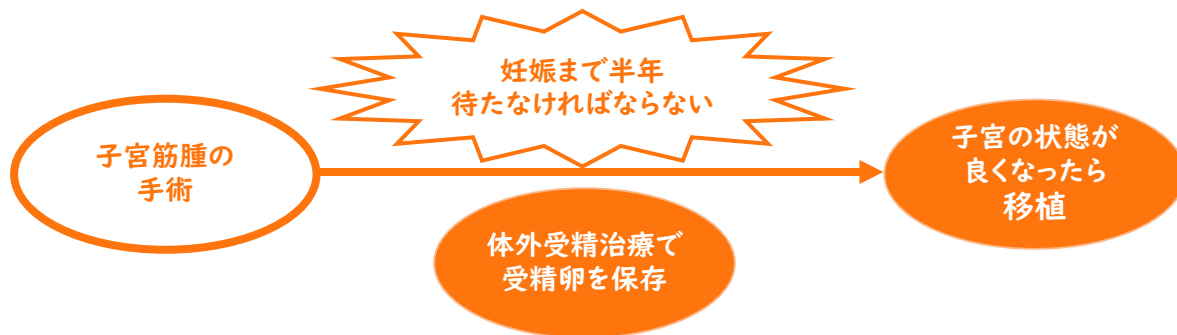
- 子宮筋腫を摘出するというのは子宮の筋肉を切開して子宮筋腫を取り出すということなので、切開をした部分が手術後直ぐでは弱くなっていると考えられます。その弱い状態で妊娠すると、妊娠して子宮が大きくなる過程で、または分娩の際に子宮内は高い圧がかかるため、子宮筋肉が破ける（子宮破裂）のリスクが高くなります。手術後妊娠した場合の分娩方法は基本的に帝王切開術になります。

治療の選択肢として

子宮筋腫を摘出する手術を行う場合、術後子宮の状態が安定するまで、体外受精治療を行い、受精卵を保存することが一つの選択肢としてあります。

子宮は年齢を重ねても、妊娠することが可能ですが、卵は年齢的な問題があります。

卵と子宮（受精卵が着床する場所）は別物です。卵は卵、子宮は子宮でそれぞれの状態を裁量な環境とし、妊娠を成立させるという提案です。



ご不明な点がございましたら、
医師または看護師にご相談ください。

医療法人社団守巧会 矢内原ウイメンズクリニック
〒247-0056
神奈川県鎌倉市大船1-26-29-4F
TEL:0467-50-0112 FAX:0467-50-0113
<https://www.yanaihara.jp/> Email info@yanaihara.jp